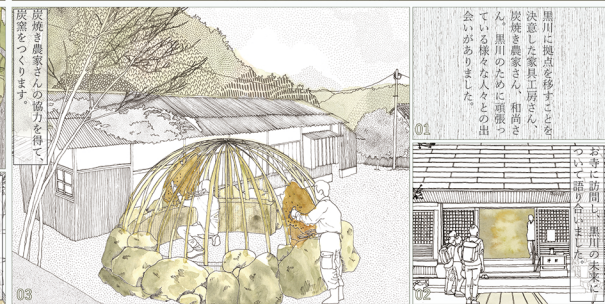


黒川燦火物語

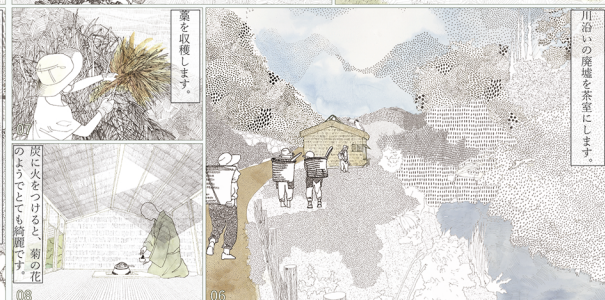
【零】 はじめにーコモンスの物語性

わたしが目にする風景は日々変化しています。都市においては速な変化によって、時間が分解されてしまっているように思えます。里山は「見え変わらない風景」ですが、人々の営みによって少しずつ風景（自然）が変化します。その小さな変化のうちにこそ、時間の輝きが宿るのです。わたしたちが提案するのは、建築が風景となるとき、この小さな動きで「時間的な連続性」をもつ山において、長い時間をかけて少しずつ容姿がいく物語です。

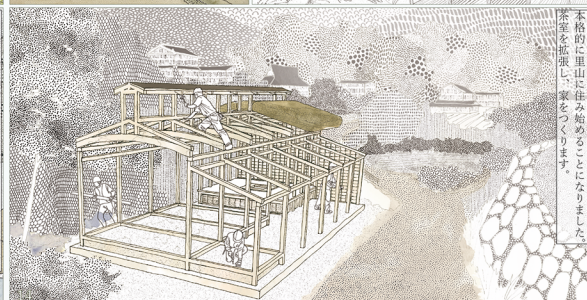
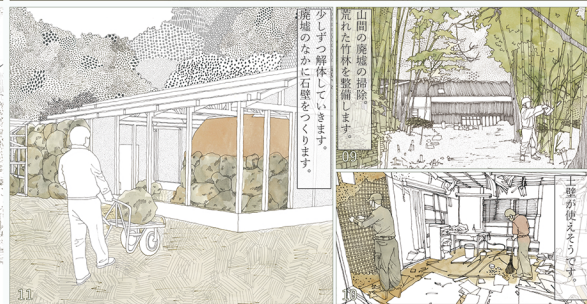
【第一章】 里山の生業と循環



黒川に拠点を移すことを決めた家（工房さん、炭焼農家さん、相商さん、黒川のために頑張っている様々な人々の出会いがありました）



【第二章】 二つの拠点の住主と自然の資源化



【第三章】 新たな担い手と更新される風景

